

## 「オフピークプロジェクト」編

東京メトロでは、朝のラッシュ時間帯の混雑緩和を目的に、ピーク時間帯を避けてご利用頂いたお客様にポイントなどを還元する取組みを2007年から実施しています。今回はオフピーク促進の歴史について、ご紹介させていただきます。

## ◎駅で見たことのあるポスター！？

東京メトロの駅で、芸人さんが凛々しい顔をしているポスターをご覧になったことはないでしょうか。実は、このポスターは、オフピークプロジェクトという、朝ラッシュのピーク時間帯を避けてご利用頂いたお客様にメトロポイントクラブ(以下、愛称「メトポ」)のポイントを進呈する取組みの紹介ポスターです。

東京メトロでは、朝のラッシュ時間帯において、このオフピークプロジェクトを実施しています。東西線オフピークプロジェクトの詳細は、専用サイト(<http://www.metpo.jp/tozailine/>)をご覧ください。

東西線 OFF PEAK PROJECT 2020.4.1 WED・2021.3.31 WED

オフピーク通勤なら、早くても、遅くても、おトクな朝に！

ピークの時間の前後に改札タッチで、

PASMOにチャージできる

メトロのポイント「メトポ」をGETしよう！



東西線 OFF PEAK PROJECT 2020.4.1 WED・2021.3.31 WED

前にもう一度、早らして通勤！ 東証取引先

東西線オフピークプロジェクト ポスター

## ◎意外と長いオフピーク促進の歴史 ～2007年「東西線早起きキャンペーン」開始～

朝のラッシュ時間帯のオフピークを促進するキャンペーンは、東西線において2007年に開始した「東西線早起きキャンペーン」まで遡ります。

東西線では可能な限り輸送力を増強し、1時間に27本の高密度な運行を実施していましたが、最混雑区間で200%程度の混雑率となるなど、混雑緩和が喫緊の課題でした。そこで取組みをスタートさせたのが、鉄道会社として初となるIC乗車券を活用した東西線早起きキャンペーンです。対象駅毎に設定された時間帯にIC乗車券を専用端末にタッチすることで「早起き通勤回数」をカウントし、一定回数に達したお客様にギフトカードをプレゼントする取組みで、当時約4,500人のお客様に継続的にご参加いただきました。その後、自動改札機へのタッチのみで参加回数を管理できるシステムを導入することで専用端末へのタッチを不要とする等、より気軽にご参加いただくための改良を重ね、2019年からはメトポのポイントを進呈する東西線オフピークプロジェクトへ刷新いたしました。



2007年キャンペーン専用端末



2007年キャンペーンポスター

開始から今年で14年を迎えるオフピーク促進の取組みについては、お客様の声やご利用状況などを踏まえながらリニューアルを重ね、今日の「オフピークプロジェクト」まで歴史が続いています。

## 2007年「東西線早起きキャンペーン」

- ・ 冬季のみ実施
- ・ 専用端末にタッチする必要あり
- ・ 東西線一部区間での利用が対象
- ・ 利用回数によってギフトカードと交換

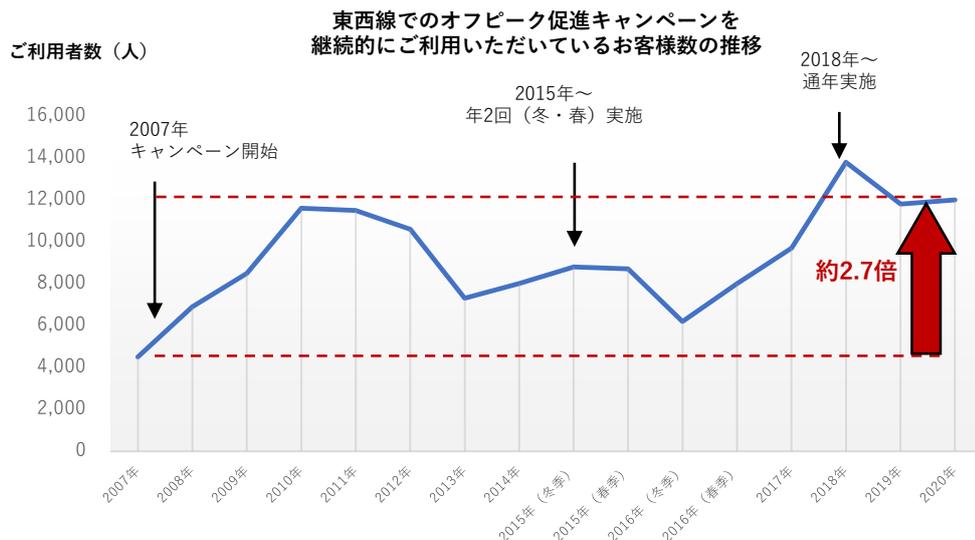
## 2020年「東西線オフピークプロジェクト」

- ・ 通年での実施
- ・ 改札の入出場による管理
- ・ 相互直通運転先からのご利用も対象に
- ・ 10ポイント＝10円としてPASMOへのチャージが可能なメトポのポイントを進呈

## ◎東西線でのオフピーク促進キャンペーンのご利用者数の推移

東西線早起きキャンペーンでは、初年度の2007年は約4,500人のお客様に継続的にご利用いただきましたが、2019年度の東西線オフピークプロジェクトでは、およそ2.7倍の約12,000人のお客様に継続的にご利用いただいております。  
(約3%の混雑率引き下げ効果と推定)

引き続き、より多くのお客様にオフピークプロジェクトにご参加いただけるよう、努めて参ります。

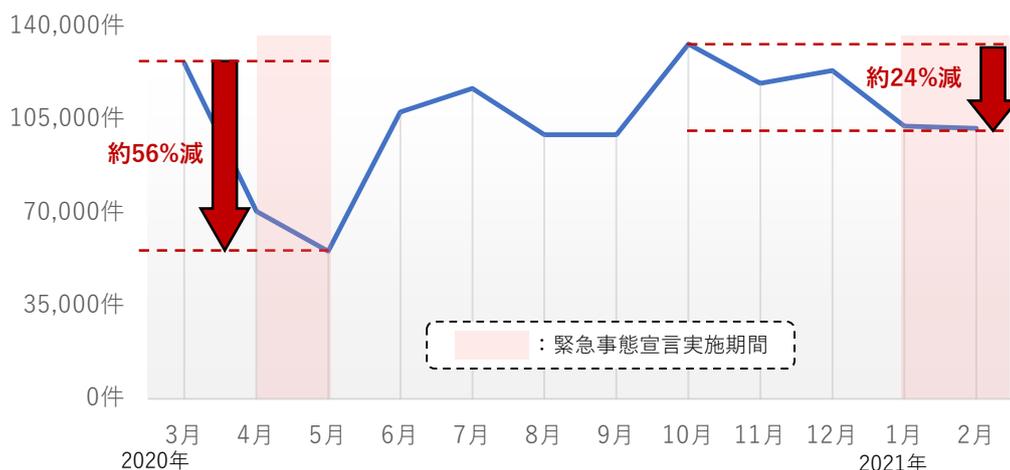


## ◎新型コロナ禍における東西線オフピークプロジェクト及び通勤・通学時間帯のご利用状況

## ●東西線オフピークプロジェクト参加件数【延べ参加件数】

2020年4月に発令された緊急事態宣言により、5月の参加件数は発令前の3月と比較して約56%減少したものの、10月には緊急事態宣言発令前を上回りました。

その後、緊急事態宣言の再発令により件数は再び減少しているものの、2020年と比較すると減少幅は緩やかです。



## ●通勤・通学時間帯のご利用状況 (東京メトロ全線)【対前年比での利用率】

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、朝のピーク時間帯(7:30~9:29)よりも早朝時間帯(6:30~7:29)のご利用が回復しております。

引き続き、オフピークプロジェクト等もご活用いただき、オフピーク通勤・通学へのご理解とご協力をお願いいたします。

